

キャラクター名
藍塵 ナグサ(アイチリ-)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	奇術師	カヴァー	居間の公園によくいる謎お姉さん
	バロール					
オプション			年齢	29	性別	女
覚醒	探求	衝動	飢餓	初期侵食率	28	%
出自			経験	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	0	0	1		1	行動値	10
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	10
精神	4	0	0			4	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:	2		知識:	2		情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
病床に眠る母親	P 尽力	N 疎外感		
ペットのうさぎ	P 幸福感	N 偏愛		
名も知らぬ少年	P 懐旧	N 隔意		
永見孝三	P 遺志	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:バロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: 組み合わせたエフェクトのC値を[Lv×1]下げる。このエフェクトの効果は-3まで。								
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果: 組み合わせたエフェクトの「同エンゲージ選択不可」を撤廃。また判定ダイスをLv+1個増加。								
黒の鉄槌	1	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+Lv×2+2のダメージ。同エンゲージ選択不可。								
ダークマター	2	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: メインプロセス中、バロールエフェクトの判定ダイスを+Lv個								
斥力障壁	1	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 任意の対象にHPダメージが命中した際、割り込みで[1D+Lv×2]点のダメージを軽減する。ラウンド1制限あり。								
魔王の理	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 組み合わせたエフェクトの攻撃力に+Lv×2								
ポケットディメンジョン	1	-	メジャー	至近	対象参照	自動	-	
効果: 有り得べからざる空間を生み出す。								
魔王の玉座	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 重力操作で宙に浮いている。								
吸着	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 手に持った物の重力を操作する。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

・投げ物専門の伸び悩み奇術師さん
 ・怪しい手法に手を出してしまい案の定アウト、レネゲイドに感染してしまう
 ・落ち込む成績、暴発する能力、そんな暗雲の中に差し込む一筋の光こそが永見孝三であった。

ナグサの左眼は幼少期に病によって蝕まれ、極度に視力が抜け落ちてしまっている。そんな彼女を女手一つで懸命に育ててくれたのが母であった。だが無理が祟ったか、ナグサが中学校を卒業する頃にその母が奇病に侵されてしまう。方々に方策を探しまわった結果、最も成功率が高く後遺症もまた最も軽微とされたのが前頭葉ロボトミー手術であった。幸運にも手術自体は成功し病自体は治癒され、術後の快復もまた順調だった…かに思われた。

きっかけは些細なことであった。「弁当を用意した/していなかった」で口論になり、よくよく擦り合わせてみれば前日の記憶と混同していた。「この書類、今日までだからここにサインを」と言われて見れば既に昨日書いて渡したソレそのものであった。前々から心待ちにしていたイベントがしかし肝心の子チケットを獲得できず見送りという判断を共に下したのに、当日になって「待ち合わせの駅に居ないがどうした」という旨の連絡が入った……どの件についても問い詰めてみれば「冗談だ、少しからかってみただけだ」との返答を得るも、「忘れていた」という瞬間の顔はどう見ても真剣そのもので。……いくら安全策を尽くしたといえど脳に損傷を受けたことには変わらず、徐々に日常が崩れゆくのが感じられた。